

【評価実施概要】

事業所番号	3770102626
法人名	有限会社そよ風
事業所名	グループホームそよの里
所在地	香川県高松市多肥上町504-2 (電話) 087-864-8270
評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成19年6月13日

【情報提供票より】 (平成19年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 10月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	12人	常勤	11人、非常勤 1人、常勤換算 4.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り
	1部2階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000円	その他の経費(月額)	12,000円	
敷金	有()円	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有()円	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250円	昼食	400円
	夕食	450円	おやつ	100円
	または1日当たり 1,200円			

(4) 利用者の概要 (6月13日現在)

利用者人数	16名	男性	5名	女性	11名
要介護1	4名	要介護2	8名		
要介護3	1名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 84歳	最低	61歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高松平成病院、おさか脳神経外科、やまもと医院 高田整形外科医院、生協へいわ歯科
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者は職員の資質向上に意欲的で、外部講師を招いた職員研修会を計画しており、2回目以降は段階別研修会で、夜間、全員参加としている。これが継続的に実施され、サービス向上につながることを期待したい。また、職員異動によるサービス低下を防ぐため、運営規程等を目次付きの一冊のファイルとし、見やすい所に保管している。これは、サービスの一貫性確保策となると思われる。
なお、前々回の外部評価の改善点である玄関の施錠については、施錠しない工夫が行われ、以後、出て行こうとする利用者はいないとの報告があった。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善点であるアセスメント、ケアプランの書式は、簡略化せず、所定の書式を使用しており、改善されている。その他、運営上、重要なマニュアルは一冊のファイルとして整理し、見やすい場所に保管している。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回は書式や内容に変更があり、管理者と職員が自己評価について話し合い、課題についても抽出して、前向きに取り組んだ姿勢がうかがえる。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議の回数を重ねるごとに、馴染みが深まり、和やかに話しあうことができるようになってきている。また、在宅高齢者の様子も分かるようになった。会で出た意見は、職員会に報告し、改善に取り組んでいる。また、地域行事への参加の呼びかけもある。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会や行事に参加してもらった時などに、家族の意見を聞くようにしており、気軽に言ってもらえるよう配慮している。また、意見は、運営に活かすよう取り組んでいる。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域との連携を意識した運営を行っているが、日常生活の中での交流は、もう少しの感がある。地域の一員として、職員等が自治会、老人会、地域行事や奉仕活動に参加し、役割の一端を担いつつ、地元の人々との交流を深める努力に期待したい。</p>
重点項目④	

※ は、重点項目。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が、その人らしく生活していくことを支える、ホーム独自の運営理念をつくりあげている。開設以来の理念を、引き継いでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの各所に理念が掲げられている。また、毎朝のミーティングには、職員全員で理念を唱和し、気持ちを新たにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域に目を向けた活動に取り組もうとしているが、積極的なアクションにまでは至っていない。	○	地域の一員として、自治会、老人会、行事等に参加し、役割の一端を担いつつ、地元の人々との交流を深める努力に期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員の意見を聞いて実施した。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、活発な意見交換ができるようになり、地域行事への誘いもある。会議内容は、全職員に周知し、今後のサービスに活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	主に代表者が市役所を訪れ、ホームの状況を伝えたり、情報を収集し、行政側と共に、サービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日常生活ぶりや健康状態、金銭管理状況等を内容とした便りを、毎月家族に送付しており、写真も同封するようにしている。また、面会時には近況等を報告している。発信した便りの控えを残し、ファイルしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関の分かりやすい所に苦情箱を設置している。面会や行事の折に、家族等の意見を聞き、それを運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員とのコミュニケーションを大切にしてい、離職しないよう努力しているが、辞める職員もいる。そのダメージを防ぐよう、管理者が調整等に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員研修の重要性を認識し、段階に応じた研修を始める計画がある。現段階では、外部の管理者研修に参加している。	○	段階別の内部研修の継続に期待したい。外部研修には、一般職員にも参加の機会を増やし、職員資質の向上に努めて欲しい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は、ほとんど行われていない。	○	職員を積極的に、同業団体の会合や研修会に派遣する等、今後の取り組みに期待したい。そうすることで、職員は同業者から学ぶことができ、相談したり、されたりの関係も深まり、ネットワークも広がるので、それがサービスの質の向上につながると思われる。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まずは、利用者とのコミュニケーションを大切にしながら、馴染みを深めてサービスを始めるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者ができることは一緒に行い、利用者との会話の中から教わることも多く、支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族と話しあったり、日々の行動や表情にも気を配りながら、一人ひとりの思いや意向を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成にあたっては、本人や家族、親族等と話し合い、意見を聞いて作成している。本人のより良い暮らしを目指した、計画づくりを行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回は、計画の見直しを行っている。また、病院退院後は、病院職員や家族の意見等を聞いて、現状に即した新たな計画づくりをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に沿えるような、柔軟な対応を心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関の他、入居前のかかりつけ医がある場合は、継続受診ができるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に向けた方針は、家族、医師等との話し合いを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりのプライバシーの確保を、大切にした対応を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの心身の状況を配慮しながら、その人らしい暮らしができるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けができる利用者がいないとのことで、ほとんど、職員が行っている。	○	部分的な作業であっても、一緒にすることに意義があると思われるので、そうした雰囲気づくりに努めて欲しい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望にあわせて、気持ちよく入浴ができるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	編物や掃除、洗濯干し、たたみ、草取り等、できることを楽しみながら行えるような支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物等、できるだけ戸外に出かけて楽しめるよう配慮をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	常に、日中は鍵をかけない状態であり、無断で出て行こうとする者もない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練や消火器の使い方等の訓練を、定期的に実施している。災害に備えて、地域の人々の協力が得られるような働きかけも行っている。	○	停電に備えて、誘導灯や懐中電灯の点検等をしておくことも大切だと思われるので、取り組んで欲しい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各自の摂取量は大まかに把握している。栄養士が献立を作り、栄養バランスに配慮している。また、水分量を記録し、職員が情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は作品で飾ったり、季節感をとり入れた楽しい工夫が各所に見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、使い慣れた家具や置物、写真等を持ち込んで、自分の部屋をつくっている入居者もいる。宿泊室はない。		